

防衛大学校

少林寺拳法部



1993年
部誌・OB会報
第20号

目 次

***** 部

誌 *****

- 1 部長挨拶 教授（化学） 菅 野 等
- 2 学生寄稿
38期 主 将 奇 藤 浩
38期 副 将 向 井 洋 史
39期 主 将 中 村 公 太 郎
39期 副 将（演 武） 大 松 清 生
40期 小 坂 淳、熊 本 巖
41期 黒 田 彰、島ノ江 英 毅
- 3 平成5年度 活動成果報告
- 4 部長・顧問・39期幹部名簿
- 5 部員名簿
- 6 平成6年度 年間活動計画

***** 奥 平 会 報 *****

- 1 巻頭言 奥平会会長 上 杉 和 壽
- 2 平成5年度奥平会活動概要等
- 3 連絡事項（期連絡網の設定、30周年記念行事）
- 4 平成5年度会計報告
- 5 奥平会名簿
- 6 返信用葉書（別添）、郵便振込み用紙（別添）

創部 30 年

合掌

この部誌がOB諸兄のお手元に届くころには”新年おめでとうございます”と言う挨拶も時期はずれになっていることと思いますが、まずは、旧年中のご支援を感謝すると共に本年もよろしくご支援をお願い申し上げます。特に、本年は少林寺拳法部の創部30年の記念すべき年でもあります。そこで、6月4日（土曜日）に記念祝賀会を計画しておりますので、OB諸兄の多数のご参加を期待しております。

私が少林寺拳法部にたずさわることになった7年前には、すでに防大の中において輝かしい実績をもった部として確固たる地位を築いておりました。練習場も無かったと言う創部当時の苦労話を、前部長の丸川先生や師範の田村先生からお伺いすることがありました。こうした先輩方の御苦労や創意工夫によって敷かれたレールの延長上に、今日の良き伝統が作られ、高い実績を生み出している、と考えられます。

実際、奇藤君を主将とする今年度の少林寺拳法部の学生諸君も伝統を良く引き継ぎ、良い成績を収めてくれました。団体演武は関東学生大会、全日本学生大会ではここ数年常に最優秀賞です。現在は、4年生から3年生に、バトンが引き継がれ、佐伯監督の指導のもとに中村君を主将として、新たな挑戦に向けて練習に励んでおります。

末尾ながら、OB諸兄のご健勝をお祈り申し上げます。

結手

平成6年1月

部長 菅野 等

三十八期主将 奇藤 浩

合 掌

三十九期に政権を渡し、防大少林寺拳法部のOBとなつてはや二ヶ月余りが経ちました。今思うと、16時からの日々の練習、合宿、黒帯自覚期間、組演武、団演、衆敵等々、思い出ただけでも身の毛のよだつような日々も、今となつては良き経験として頭の中を横切ります。防大少林寺拳法部で得た事、それは体力、技量はもちろんですが、何よりも精神的な成長が一番大きかったように思います。先の見えない苦難に耐え抜く忍耐力、助け合いの心、指導力、そして団結心。今私は防大少林寺拳法部に在籍して本当に良かったと思います。又、三年半の間苦楽を共にし、励まし会った同期に心から感謝したいと思います。後輩諸君、さらなる発展を目指して頑張ってくれ。

最後に、様々な御力添えをして下さいました師範、部長、監督、顧問、諸先輩方、誠に有り難うございました。

結 手

三十八期副将 向井 洋史 「政権交代を終えて」

合 掌

我々三十八期が防大に入校して早4年の月日が過ぎようとしています。全く月日の流れるのは早いもので、特に少林寺拳法部の政権をとった日から引退までの約1年間は本当にあっという間に過ぎた気がしました。しかし、この4年間で得られたものは実に大きかったと思っています。人として、一社会人として、また一人の男としてどう人と接してゆくべきか、どう生きてゆくべきかをこの少林寺拳法部を通じて学ぶ事が出来ました。少林寺拳法部の中には多くの教えがありますが、私が最も好み、一生涯のかてとしてゆきたい言葉が一つだけあります。それは「己こそ己の寄るべ己をおきて誰によるべぞ よく整えし己こそまことに得難き寄るべなり」です。一見当たり前の事を言っているようですが、私は実に奥の深い言葉であると思っています。自分の中に絶対に他人に引けをとらない部分を持つ事、それだけを言っている訳でなく、プラス常に他人を思いやる気持ちを忘れない事が大事だ、そう私は理解しています。当然今の私が公然で口にするには不釣り合いな言葉ですが、そう言った自分の理想像を目指して今後も精進してゆきたいと思っています。三十九期以降の政権には、強さを求めるだけでなく本当の強さとは何なのか、人としてどうあるべきかを考え後輩達への指導の指針として欲しいと思います。そうすればこれまで以上に素晴らしい部になるでしょう。

最後に我々三十八期が無事政権を終えられたのも日頃からの部長、監督を始めとする諸先輩方の御指導の賜であると深く感謝しております。また、4年間共に苦しみも喜びも分かち合った三十八期主将の奇藤、そして同期のみんなに感謝しています。

ありがとう。

結 手

合 掌

我々三十九期が防大少林寺拳法部に入部して、はや三年の月日経ち新たに政権を担当することとなりました。諸先輩方の築いてこられた伝統を汚す事なく、より一層の発展のために、三十九期一同全力を尽くす所存であります。

さて私は勤務目標として「本当の強さを目指せ」を掲げました。少林寺拳法の目的とするところは、自分自身を寄りどころに出来る揺るぎない自信を得ることにあります。これを達成するために部員一同、常に前向きの姿勢を持ち、日々の厳しい修練に立ち向かい、努力していきたいと思っております。

最後となりましたが、今後とも諸先輩方の厚い御支援の程宜しく御願い申し上げます。

結 手

合 掌

我々が入部してはや三年の月日経ち、先頃行われた全日本学生大会においても念願の団演6連覇を成し遂げられたのは、三十六・三十七・三十八期の先輩方の御指導の賜であると思っております。

そして、いよいよ我々が政権を取り、後輩を指導していく事の厳しさが身にしみて感じられる今日この頃です。私は演武副将である立場から、技に関してのより深い知識を同期の誰よりも持っていなければなりません。全日本大会で感じたように、演武については組演武の見直しが我々に課せられた使命であると思っています。ここで過去の防大少林寺拳法部のようなになるか、このまま団演だけの防大になるかは、我々三十九期の双肩にかかっています。私としても全力を尽くして技の研究に励み、演武を見る目を養っていこうと思っております。

最後となりましたが、防大少林寺拳法部を再浮上させる意味において私は以下の言葉を勤務目標にします。

「自分が今やっている事の意味を知り、そのことに誇りを持つ。」

これから一年間、御支援・御指導の程宜しく申し上げます。

結 手

合 掌

私が防大に入校して、早くも二年が過ぎようとしています。その間、色々な思い出がありますが一番大きな比重を占めているのはやはりクラブです。思い出してみると、白帯の時は、何も考えられず毎日を乗り切っていくのに精一杯でした。そしてやっと茶帯をもらったと思ったのも束の間、次には黒帯自覚週間というものが待っていました。7月に黒帯をもらったときはとても感動したことを覚えています。最近では、より黒帯をもつ者らしくあることができるようにと考えることがあります。私がこのクラブに入部した動機は、人にあります。中隊の上級生を見て、

「この人のようにになりたい。」

と、いう人達がこのクラブだったので入部したのです。そういう訳で私の今後の目標は、少林寺の技術を修練するとともに、少林寺拳法をやる人間として少しずつでも成長していけるようにしたいと思います。そして入部時に目標とした人たちのようになれるように努力していきたいと思います。

結 手

40期 熊本 巖

合 掌

私が少林寺拳法部に入って、もう二年が経とうとしています。強くなりたくて入ったのはよかったのですが、当時は一年間続ける自信もありませんでした。しかし心技体を兼ね備えた上級生の方々への憧れや、苦楽を共にし、心を許せる同期の助けのおかげでここまで何とかやってこれました。昨年の関東学生大会では、勝つ（銀メダルでしたが）喜びを知ることができました。

ところで、4月からは、いよいよ本格的に団体演武に取り組むこととなります。時折ふと、自分達に三十八期や三十九期のような演武ができるのだろうかと思い、不安になる事もあります。しかし、やる気十分の同期の姿を見ているとそのような不安など消し飛んでしまいます。

最後になりましたが、この素晴らしい同期と共に一致団結して、関東学生大会、そして全日本学生大会を勝ち抜いて行こうと思います。

結 手

合 掌

私は、防大に入る以前から、校友会は何か武道系に入りたいと思っていました。というのも、アメリカに留学していた頃、友人に冗談で黒帯を持っていると言ったら、それ以来誰もが私に一目置くようになったのです。それほど黒帯とは大きなものなのです。ですから防大で黒帯をとるまで何かしたいと思ったのです。

しかし、空手は猫も杓子もしていて、合気道は少しばかり迫力に欠けるといった感じがしました。柔道を昔8年していたので、それにしようかと思っていた矢先に私の目に止まったのが少林寺拳法でした。突き蹴りあり、投げあり、間接技ありと、まるで空手と合気道をたして割ったようなもので、これをマスターすれば恐れるものは何もないと思いました。しかも聞けば防大が唯一誇る日本一の校友会というではないですか。防大一きついという事も承知の上、毎日勧誘にくる先輩にも負けて入部を決意しました。一学年で一番最後に入部した私ですが、先輩方の指導のおかげで賞こそとれませんでした。が武道館で演武をさせてもらう事もできました。

防大少林寺に入部してもうすぐ1年になろうとしております。帯の色も変わりましたが、精神的にも強くなったと思います。これから黒帯自覚などまだまだ越えなければならぬ山が多々ありますが、一学年22名、全員でその障害を乗り越えて、二年後の団演では金をとれるように日頃から精進したいです。

合 掌

私は高校の時から、防大には少林寺拳法部があると知っていましたが、特別入部しようとは思っていませんでした。しかし、上級生の方に少林寺は強くなれる日本一になれると聞いて入部しました。練習はととてもきつく辛いのですが、練習後の充実感は例えようもありません。また、熱心に指導してくれる上級生の方を見ると、もっと頑張らなくてはならないと思うのです。

この少林寺拳法部に入部して、色々な事が自分には少なからず身に付いたと思います。まず、忍耐力・精神力・団結力です。声も大きくなりましたし、足も速くなりましたし、礼儀も知ることができました。特に団結力は非常に大事で、お互いに励まし合っていると、どこからか力が湧いてきます。

練習で一日一日、一時間一時間、技一本一本を、そして基本を大事にし、また上級生を信じてついていけば必ず強くなれ、そして日本一になれると信じています。目標はまだはやすぎますが、団体演武日本一です。この目標を達成するには皆が「俺がやらなければ」の考えを持つことだと思っています。今からまだまだ厳しいことがあると思いますが、自分に負けずに頑張ります。

平成5年度成果報告

関東学生大会

男子段外の部	優秀賞	1 3 2 (2)	小坂 淳	3 3 1 (2)	熊本 巖
男子衆敵の部	優良賞	3 2 2 (4)	向井 洋史	3 4 1 (4)	尼子 将之
		4 3 2 (4)	城戸 利彰	3 1 1 (3)	長濱 誠
団体演武の部	最優秀賞	1 4 2 (3)	小澤 謙雄	2 2 1 (3)	久保 敦
		2 2 1 (3)	杉原 正典	2 2 2 (3)	野本 肇
		2 3 1 (3)	井上 裕策	2 4 1 (3)	大塚 晋介
		3 1 1 (3)	西田 美嗣	3 3 2 (3)	鳥越 渉
		3 3 3 (3)	大松 清生	3 4 3 (3)	中村 公多朗
		4 4 1 (3)	遠藤 英隆		

神奈川県大会

団体演武の部	優勝	1 1 1 (3)	三好 英治	1 2 3 (2)	朽木 誠
		1 4 2 (3)	小澤 謙雄	2 2 1 (3)	久保 敦
		2 2 1 (3)	前床 泰彦	2 2 2 (3)	野本 肇
		2 4 1 (3)	大塚 晋介	3 2 1 (3)	松崎 徹
		3 3 2 (3)	鳥越 渉	4 4 3 (3)	井上 嘉史

全日本学生大会

団体演武の部	最優秀賞	1 4 2 (3)	小澤 謙雄	2 2 1 (3)	久保 敦
		2 2 1 (3)	杉原 正典	2 2 2 (3)	野本 肇
		2 3 1 (3)	井上 裕策	2 4 1 (3)	大塚 晋介
		3 1 1 (3)	西田 美嗣	3 2 1 (3)	松崎 徹
		3 3 2 (3)	鳥越 渉	3 3 3 (3)	大松 清生
		3 4 3 (3)	中村 公多朗	4 4 1 (3)	遠藤 英隆

全自衛隊大会

段外の部	優勝	2 3 3 (1)	三宅 英明	3 3 2 (1)	大川 洋史
	準優勝	3 4 2 (1)	石井 伸幸	4 2 2 (1)	後藤 仁志
	第5位	3 2 2 (1)	建部 広喜	3 4 1 (1)	吉村 裕樹
初二段の部	準優勝	3 2 2 (2)	守井 孝志	3 4 2 (1)	綿貫 俊一

平成5年度防衛大少林寺拳法部

部長・顧問等

部長	菅野 等	(教授)
師範	田村 倉蔵	
	神田 憲和	
監督	佐伯 義次	(25A)
顧問	紫村 敬二	(18A)
	尾崎 信朗	(25F)
	福島 睦	(26F)
	古賀 敏明	(28A)
	富樫 勇一	(33A)

顧問	松井 健一	(31A)
	阿部 博文	(31F)
	迫田 浩文	(31N)
	小田 益男	(32A)
	高橋 秀雄	(32F)
	柿野 忠嗣	(33A)
	田中 一要	(34A)

第39期

主将	343(3)	中村 公多朗
副将	333(3)	大松 清生
	222(3)	野本 肇
統制長	221(3)	久保 敦
道場長	441(3)	遠藤 英隆
3年係	332(3)	鳥越 涉
2年係	221(3)	杉原 正典
	441(3)	遠藤 英隆
1年係	231(3)	井上 裕策
	221(3)	久保 敦
訓練係	311(3)	西田 美嗣

主務	443(3)	井上 嘉史
	221(3)	前床 泰彦
安全係	321(3)	松崎 徹
会計	142(3)	小澤 謙雄
師範係	241(3)	大塚 晋介
涉外	142(3)	小澤 謙雄
本山係	111(3)	三好 英治
学連係	221(3)	前床 泰彦
OB係	123(2)	朽木 誠

部員

38期

小隊	専攻	要員	氏名	
112	情報	陸上	水野	亮二
231	電子	海上	高橋	俊隆
242	通信	陸上	奇藤	浩
312	地球	陸上	宮下	克聡
322	航宇	航空	向井	洋史
323	地球	陸上	黒子	智彰
341	土木	陸上	尼子	将之
311	応物	陸上	長濱	誠
333	機シ	陸上	達下	裕教
412	機シ	陸上	高岡	徳人
422	機械	海上	中村	格
423	機シ	海上	城戸	利彰
443	機械	海上	佐藤	滝大
			平井	穉治

39期

小隊	専攻	要員	氏名	
111	応化	陸上	三好	英治
123	管理	陸上	朽木	誠
142	応化	陸上	小澤	謙雄
221	管理	航空	久保	敦
221	航宇	航空	前床	泰彦
221	土木	陸上	杉原	正典
222	管理	陸上	野本	肇
231	航宇	陸上	井上	裕策
241	航宇	航空	大塚	晋介
311	機械	陸上	西田	美嗣
321	応物	海上	松崎	徹
332	機シ	海上	鳥越	涉
333	材物	海上	大松	清生
343	機シ	陸上	中村	公多朗
441	国関	陸上	遠藤	英隆
443	国関	陸上	井上	嘉史

40期

小隊	専攻	要員	氏名	
113	地球	陸上	上野	洋介
121	理工		阿達	文明
132	航宇	航空	小坂	淳
133	航宇	航空	山田	賢治
212	機械	陸上	高田	善行
212	応物	陸上	奈良	一志
233	応物	陸上	川崎	英輔
242	機シ	陸上	永友	恒知
322	精機	航空	守井	孝志
331	国関	陸上	熊本	巖
342	理工		綿貫	俊一
411	電子	航空	岩本	正臣

41期

小隊	専攻	要員	氏名	
111	理工		黒沢	謙二
131	理工		和崎	拓己
211	理工		黒田	彰
223	理工		寺田	昌弘
233	理工		三宅	英明
233	理工		片上	裕文
242	理工		中江	宏彰
311	人文		小林	貴
312	人文		橋本	学
322	理工		清水	優
322	理工		曾我部	信久
322	理工		建部	広喜
332	理工		大川	洋史
333	理工		小段	雄三
341	理工		吉村	裕樹
342	理工		石井	伸幸
412	理工		島ノ江	英毅
413	理工		佐久間	博
421	理工		レイ・グバンデス	
422	理工		後藤	仁志
443	理工		松下	尚文

年間計画

一 月	上旬 中旬 下旬	寒稽古	七 月	上 中旬 下	夏季定期訓練
二 月	上旬 中旬 下旬	OB杯演武会・納会	八 月	上旬 中旬 下旬	夏季合宿 夏季休暇 本山合宿
三 月	上旬 中旬 下旬	春季合宿・春季休暇	九 月	上旬 中旬 下旬	
四 月	上旬 中旬 下旬	入校式典 春季競技会	十 月	上旬 中旬 下旬	夏季競技会
五 月	上旬 中旬 下旬	関東学生大会	十一 月	上旬 中旬 下旬	全日本学生大会 開校記念祭
六 月	上旬 中旬 下旬		十二 月	上旬 中旬 下旬	体育競技会 冬季競技会 冬季休暇

報 會 平 奧



巻 頭 言

奥平会会長 上 杉 和 壽

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては益々ご壮健にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

私は昨年4月、前会長の清水先輩から会長職を引継いだ15期の上杉です。微力ではありますが、歴代会長が築かれた奥平会の伝統を継承すべく努力する所存ですので会員皆様のご協力をお願い致します。

さて、10期生が人文館屋上で始めた少林寺拳法が防大で根付いてから今年で30年を迎えることになりました。

この間、28個期・約560名が少林寺拳法OBとして防大を巣立ち各方面で活躍しておられます。

このOBの数は各期平均約20名であり、防大の1学年の1個学生班に相当する数が、主に自衛隊の中で活躍しているという防大クラブの中で最大勢力に成長してきました。

初期の先輩方は既にそれぞれ自衛隊の枢要な職務に就かれ、どこの部隊等でも上から下までくまなく奥平会員がいる状況で、会員にとっては何かと仕事の上でプラスになっていることと思います。

しかしながら、少林寺拳法はメジャーのスポーツとは異なり学生時代の活動で終ることが多く、その後の付き合いはどうしても疎遠になりがちです。

30周年記念行事の機会に、奥平会会員がそれぞれの時代でクラブ発展のために努力され苦労されたこと、また、反省や教訓等々を現役学生に伝承し、より良い防大少林寺拳法部の発展を期するとともに、相互の親睦を更に深めていきたいと思っておりますので皆様のご協力をお願いし挨拶とさせていただきます。

結 手

平成5年度奥平会活動概要等

1 現役部員に対する支援

春季・夏季合宿、関東・全日本学生大会、全国自衛隊大会等に対し支援を実施致しました。また、ご多忙中にも係わらず、多数のOBの皆様が大会等の応援に駆けつけてくださいました。誠に有難うございます。来年度につきましてもできる限り大会の予定をご連絡いたしますので、応援のほどよろしくお願い致します。

2 総会の実施

本年度も会則に基づき、開校記念祭当日多数の会員の皆様の参加を頂き総会を開催致しました。

本総会で「期連絡網の設定」及び「防大少林寺拳法部創部30周年記念行事」について御賛同を得ることができました。細部については、別項でご連絡いたします。

3 会員名簿の更新について

会員名簿につきましては、関係資料を参考にして正確に記載するように努めましたが、所属の誤りや旧所属の記入等、間違いが若干あります。御気付きの点がございましたら、防大本部までご連絡下さい。

4 その他

会員の慶弔につきましては、会員の皆様のご連絡に頼らざるを得ない現状ですのでご本人若しくは近傍の会員の方からご一報頂きますようお願い致します。

5 本部連絡先

〒 239 横須賀市走水1-10-20

防衛大学校43中隊 1等陸尉 古賀敏明(庶務)

☎ 専用線 8-40-2643

局 線 0468-41-3810 (内2643)

平成5年度奥平会本部

会 長	15A	上杉和尋(陸 2561)	幹 事	31N	迫田浩文(獣 2430)
副会長	18A	紫村敬二(獣 2710)	〃	31F	阿部博文(獣 2241)
幹 事	25A	佐伯義次(醫 獣2733)	〃	32A	小田益男(獣 2301)
〃	25F	尾崎信朗(獣 2743)	〃	32F	高橋秀雄(獣 2435)
〃	26F	福島睦(獣 2731)	〃	33A	富樫勇一(会計 獣2622)
〃	28A	古賀敏明(獣 獣2643)	〃	33A	柿野忠嗣(獣 2330)
〃	31A	松井健一(獣 2355)	〃	34A	田中一要(獣 2459)
			6年3期入部	30A	土屋甲吉(獣 2642)

連絡事項

1 期連絡網の設置について

(1) 主旨

OB会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

(2) 連絡の要領

ア 各期に1名、連絡担当者を置く。

イ 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期の連絡担当者に連絡し、変更事項を告げる。

ウ 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに、奥平会本部（防大内奥平会庶務）に連絡する。

連絡担当者の期、所属、住所、連絡先を御連絡下さい。

エ その他、会員の慶弔に関する事項については、各人毎直接、又は連絡担当者を通じて奥平会本部に連絡するものとする。

(3) 連絡担当者の指名

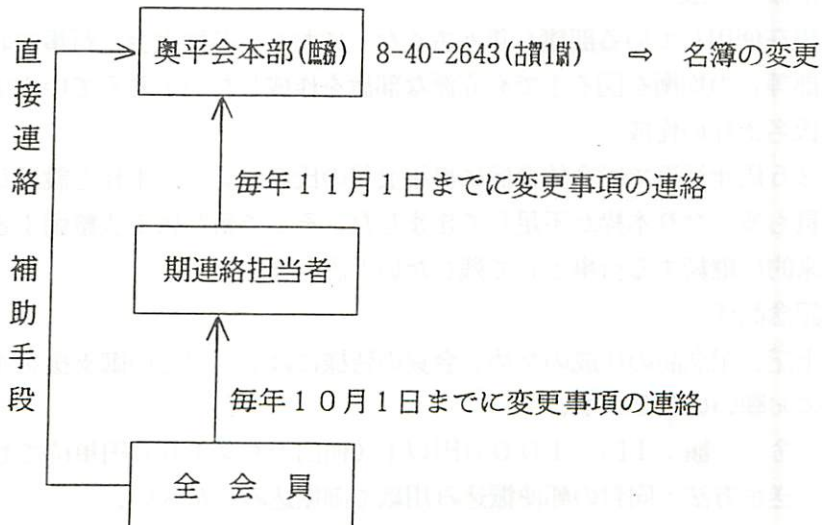
3年を任期とし、次の担当者を指名。（継続を妨げない）

(4) その他

ア 初回の連絡担当者の選出については、同期による互選とし平成6年5月1日までに奥平会本部（防大内奥平会庶務）に連絡してください。なお、連絡がない場合は本部で選出させていただきます。

イ 連絡担当者の発表は、30周年記念祝賀会時に行います。

ウ 期連絡網



2 30周年記念行事について

(1) 30周年記念祝賀会の開催

ア 開催日時：平成6年6月4日（土）

1630～1830

イ 場所：明治記念館（あけぼのの間）

東京都港区赤坂2-2-23

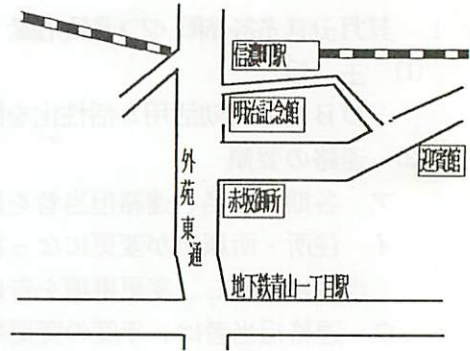
TEL 03-3403-1171

ウ 交通機関：JR（中央、総武線）

信濃町駅下車徒歩3分

地下鉄（銀座線、半蔵門線）

青山一丁目下車徒歩6分



エ 会費：1万円

オ 連絡：30周年記念祝賀会への参加の有・無の確認については、同封の葉書で回答をお願いします。併せて、住所・所属等を記入して下さい（業務の都合上、4月20日までに発送してください。）

カ その他：当日は、奥平名誉会長、田村先生を始め多数の来賓の方々の参加を予定しております。また、演武、防大生の近況ビデオ等の催しも計画しておりますので、多数のOBの方々の参加をお願いします。

(2) 30周年記念品

ア 部旗の作成

現在使用している部旗も年々古くなっており、各種大会・行事における他大学支部等との均衡を図る上でも立派な部旗を作成したいと考えています。

イ 氏名木札の作成

25周年行事で総合体育館に奥平会員の氏名を記した木札を設置しましたが、部員も多くなり木枠が不足してきました。そこで新たに1式整備するとともに、将来的に継続する行事として残したいと思います。

ウ 記念品代

上記、記念品の作成のため、会員の皆様には1口以上の御支援を4月20日までお願いいたします。

(ア) 金額：1口 1000円以上（何口でも又100円単位でも結構です）

(イ) 送金方法：同封の郵便振込み用紙で御振込みください。

(ウ) 郵便振替：00200-5-60874 防衛大学校少林寺拳法部

平成5年度会計報告

(H5. 1. 23~H6. 1. 20)

収 入		支 出	
1	前年度繰越金	742,649	
2	OB会費(37職 18人分)	900,000	1 各種大会支援等 関東学生大会 (5/4 開催)
3	激励金等 奥平名誉会長	3,000	50,000
	山下元艦長(計15)	30,000	全日本学生大会 (10/24 開催)
4	利息	32,597	80,000
			全自大会 (12/8 開催)
			合宿 (3/20~21泊 8/1~6泊)
			29,600
			2 部誌発行費
			295,220
			3 奥平会運営及び活動費
			総会及び幹事活動費
			245,600
			通信事務費等
			24,627
			その他
			2,300
合 計		1,708,246	合 計
			827,347

残高(収入-支出) = 880,899 次年度繰越

名誉会員

奥平会名簿

職名	氏名	現所属	連絡先	備考
部長	菅野 等	化学教室	〒236 横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番 1-411 TEL 045-786-5877	防大2401
師範	田村倉蔵		〒187 小平市学園東町685-15 TEL 03-3261-0955	
師範	神田憲和		〒272 市川市鬼高2-12-5-705 TEL	
前部長	丸川武志		〒120 足立区小台2-33-2 TEL 03-3919-5910	
元校友会 会会長	土田國保		〒115 東京都北区西が丘1-28-4 TEL 03-3900-0409	
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名誉会長)		〒828 豊前市小石原392	10期~ 11期 4大隊指導教官
"	松木 信		〒359 所沢市泉町908-21	
"	前原良弘		〒252 藤沢市高倉950-5	
"	松本 宏		〒110 立川市若葉町1-13-2 けやき台団地18-203	
"	宍戸俊之		〒237 横須賀市田浦港町24 TEL 0468-22-3500	
"	森田晃一	陸自中方 航空連絡官	〒664 伊丹市緑ヶ丘7-1-1 中部方面隊航空連絡官 TEL 8-711-625	17期~19期 指導教官
"	辻 勇雄	横須賀地方 総監部 第1室	〒237 横須賀市追浜本町2-50 海自室ノ木宿舎123号 TEL 0468-66-7150	S51.12~S54.1 指導教官
"	今別府政実	陸自4特連 第2大隊長	〒830 久留米市国分町100 陸自4特連2大 TEL 8-955-420	S55.3~S57.8 指導教官
"	富野 博	空幕人計課	〒277 千葉県柏市根戸467-103 2-404	H1.3~H3.8 指導教官
"	米村ゆかり	装備開発実 験隊 H6.3~ 技研部	〒410-14 駿東郡小山町砂走481-27	研究科28期

期別	氏名	基地等	所屬部隊等	備考
10A	蔵田 弘明	相馬原	12師団司令部2部	
10A	黒野 耐	市ヶ谷	陸自幹部学校教育部	
10A	清水 篤男	檜町	陸幕監理部付	
10A	松島 順一	金沢	第14普通科連隊	
10A	三井 光夫	エー・ス・エフ	日本大使館	
10N	岡崎 昭一	退職	〒231 横浜市中区本牧原11-1-1103 三浦海岸ハイツ14-1441	
10F	鈴木 勝人	浜松	1空団	
10F	出田 昭一	芦屋	3術整備部長	
11A	勝野 建朗	日本原	第13特科連隊	
11A	須ヶ崎 了英	北熊本	第8師団第8特科連隊	
11A	広岡 征夫	新潟	新潟地方連絡部	
11A	水野 照夫	松戸	需品補給処	
11N	佐藤 正秀	小松島	小松島航空隊基地隊	
11N	渡辺 貞吉	佐世保	佐世保地方總監部総務課長	
11F	上田 勇作	退職	南国殖産(株)	
11F	坂元 正昭	退職		
11F	清水 正陸	小松	6空団司令	
11F	田谷 俊之	府中	2空団	
11F	藤田 尚	市ヶ谷	補本資料部長	
12A	新井 宏		--死亡--	
12A	術藤 利治	南恵庭		
12N	佐藤 備凡	市ヶ谷	幹部学校第2教官室	
12N	津川 保夫	呉	呉地方總監部管理部援護業務室	
12N	橋田 典幸	横須賀	自衛艦隊開発隊運用開発第3科長	
12F	田中 紘治	名古屋	調本名支検1主任検査官	
12F	野口 昭徳	春日	西警団基地業務群司令	
13A	石原 薩雄	福岡	第4師団付隊長	
13A	白石 克成	栃木	栃木地連募集課長	
13A	高本 俊之	岐阜	岐阜分屯地司令	
13A	戸田 勝秋	宇治	關西補給処需品課	
13A	西村 繁樹	檜町	陸幕防衛部防衛課	
13A	益田 修	健軍	九州地区補給処健軍支処	
13F	松生 剛	福江島	西警団15警群司令	
14A	赤瀬 良二	富士	富士教育団第3科	
14A	斉藤 正精	退職	日本IBM(株)	
14A	清水 重周	檜町	陸幕輸送課道航班長	
14A	清水 直正	長野	長野PLO上田募集事務所	
14A	中原 勇			
14A	原田 敏男	日本原	第13特科連隊	
14F	今井 岸男	退職	三陽機器(株)	
14F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)	
14N	森田 則広	岩国	第31航空群第81航空隊	
15A	井口 昌之	三宿	技術研究本部技術開発官室(陸)	
15A	上杉 和壽	檜町	陸幕輸送課	
15A	大竹 義信	伊丹	中部方面隊装備部	
15A	岡 隆	武山	少年工科学校	
15A	長 敬天	日本原	第13特科連隊第5大隊	
15A	奥野 耕三	宇治	關西地区補給処総務部	
15A	加藤 三千夫	檜町	陸幕開発課	
15A	遠田 雅美	旭川	第2飛行隊長	
15A	土居 良治	仙台	東北方面警務隊本部	
15A	花房 晃夫	富士	装備開発実験隊	
15A	古川 照久	檜町	幕付(防衛研究所)	
15A	三嶋 利克	檜町	中央資料隊第1科	
15N	今村 修治	江田島	第1術科学校総務課長	
15N	中島 栄一	檜町	海幕人事課補任班長	
15N	山下 啓介	退職		
15N	山崎 富雄	江田島	幹部候補生学校教官	
15F	島田 徹	檜町	空幕運用課	
15F	野間口 光夫	退職	--不明--	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
15F	福嶋 健治	春日	西空防衛課長	
16A	内山 晃	檜町	中央資料隊	
16A	岡田 正一	海田市	第13施設大隊	
16A	佐々木 二郎	小平	業務学校人事教育部研究科	
16A	斉藤 健治	伊丹	中部方面隊總務部會計課	
16A	竹内 進一	大阪	大阪地方連絡部阪東地区隊	
16A	富本 啓一	市ヶ谷	陸幕教育訓練部訓練課教範教養班	
16A	平川 真士	檜町	幹部学校(AGS学生)	
16A	芦岡 広明	市ヶ谷	護衛艦「こんごう」副長	
16N	阿部 哲夫	佐世保	護衛艦「こんごう」副長	
16N	福島 一夫	退職	新生電工(株)営業部	
16F	小笠原 猛	入間	中警団第9移動警戒隊	
16F	八木 稔	殉職		
17A	荒木 正	北熊本	第8師団2部長	
17A	飯島 定雄	檜町	防衛施設庁(本)	
17A	小池 保治	檜町		
17A	小坂 正志	檜町	中央資料隊	
17A	佐藤 吉信	札幌	北部方面隊人事部	
17A	鈴木 陽	檜町	陸幕人事部補任1班長	
17A	高橋 正	久里浜	通信学校	
17A	富安 久芳	前川原	候補生隊長	
17A	中尾 吉孝	防医大	訓練課	
17A	廣瀬 誠	檜町	陸幕人事部企画班長	
17A	福沢 賢	海田市	1部長	
17A	村田 芳次	久里浜	通信学校	
17A	吉川 雄二	三宿	技術研究本部企画	
17N	塔岡 道夫	横須賀	砕氷艦「しらせ」運用長	
17N	西嶋 正幹	呉	護衛艦「のしろ」艦長	
17N	久和 清幸	駐在官	防衛駐在官(軍縮委)	
17F	石渡 幹生	入間	中空	
17F	稲見 潔	退職	東広島市西条町吉行1-40	
17F	澤 博	檜町	空幕總務課	
17F	永富 信吉	檜町	空幕法務課	
17F	西岡 義博	退職	高崎市石原町1729-1	
17F	細田 敏夫	百里	百里救難隊長	
17F	前田 慎一	那覇	83空	
17F	松田 清明	退職	登別市美園町2-4-7	
18A	山本 剛	檜町	檜町業務隊援護室	
18A	安藤 恒夫	小平	業務学校人教部	
18A	上田 正文	檜町	陸幕防衛部付(米国防軍戦略大学)	
18A	大西 正俊	豊川	6施設群本部	
18A	河野 基春	伊丹	中部方面警務隊長	
18A	川原 彰	檜町	陸幕通信電子課	
18A	門野 睦	大宮	化学学校研究部	
18A	工藤 重見	檜町	陸幕裝備部需品課	
18A	首藤 敏明	防大	第1大隊首席指導官	
18A	紫村 敬二	帯広	第5師団補給隊長	
18A	千原 和人	健軍	西方總監部人事部	
18A	中島 仁文	札幌	札幌地連	
18A	懿 章雄	高遊原	西部方面航空野整備隊	
18A	宮田 秀	健軍	西方總監部防衛部	
18A	渡辺 義幸	横須賀	護衛艦「むらくも」艦長	
18N	岩淵 秀樹	鹿屋	第1空群司令部幕僚	
18N	近藤 清司	厚木	航空集団司令部幕僚	
18N	平原 誠	檜町	海幕裝備部航空機課	
18F	松井 博	市ヶ谷	幹部研究部	
18F	笠原 久	退職	京都市右京区西京極南大入町54-5	
18F	白数 裕樹	市ヶ谷	幹部付	
18F	長尾 齋	春日	西空司令部裝備部	
18F	勘米 良	防医大	防衛医科大学校	
19A	香柳 忍			

期別	氏名	基地等	所屬部隊等	備考
19A	迫田 直心	信太山	普通科連隊3科長	
19A	園部 武典	檜町	陸幕調査部	
19A	津留崎 清宝	八戸	第9施設大隊長	
19A	野村 俊明	市ヶ谷	幹部学校	
19A	広瀬 和紀	防医大	防衛医科大学校学生部	
19A	東 光博	退職	フォーカスシステムK. K. 浦安市入船39-1-6-501	
19A	古庄 和博	富士	富士学校総務部	
19A	前之園 敏雄	市ヶ谷	幹部学校企画室	
19A	三星 忠正	仙台	東北方調査隊	
19A	屋久 俊郎	北千歳	第1特科群	
19A	横島 秋男	檜町	陸幕調査部	
19N	濱谷 守秀	市ヶ谷	業務隊統幕学生	
19F	磯 光三	市ヶ谷	補給本部	
19F	小曲 一之	檜町	統幕3室	
19F	郷田 進	檜町	統幕3室	
19F	後藤 章	退職	春日市若葉台西3-40	
19F	杉山 昌宏	退職		
19F	園山 栄一	退職	北九州市門司東1-1-20-10	
19F	田中 秀明	檜町	施設庁	
19F	藤井 和弥	市ヶ谷	補給本部	
19F	松下 陸裕	檜町	空幕整備課	
19F	吉本 博	府中	支援集団	
20A	浅原 昭夫	霞ヶ浦	航空学校	
20A	楠本 裕幸	前川原	幹候校学生隊	
20A	小林 実	富士	総合研究開発部	
20A	榑 喜隆	檜町	陸幕装備部通電課	
20A	高岡 正明	大久保	第7施設群3科長	
20A	仲原 久晃	檜町	陸幕装備部武器課	
20A	羊翠 康二	檜町	統幕(2室)	
20A	馬場崎 修	小平	調査学校	
20A	伏木 享	檜町	装備部武器化学課	
20A	山形 克己	仙台	東北方總監部人事部	
20N	北村 孝彦	檜町	海幕防衛部運用課	
20F	石田 裕	府中	支援集団	
20F	岸本 昌文	檜町	空幕副監察官	
20F	高林 久	新田原	5空団	
20F	岳川 清美	千歳	北警団8移警隊長	
20F	南園 宏	檜町	空幕副監察官	
21A	大谷 昭次郎	檜町	陸幕教育訓練部訓練課	
21A	加藤 隆	守山	第10師団第1部	
21A	貴志 倫生	檜町	調本	
21A	桑原 幹夫	市ヶ谷	統幕学校研究室	
21A	湖崎 隆	檜町	陸幕教訓部演習班	
21A	澤井 研次	建軍	西部方面隊防衛部	
21A	園田 郁夫	檜町	陸幕教育課学校1班	
21A	高橋 久泰	秋田	秋田地方連絡部	
21A	野中 敏治	宇都宮	宇都宮業務隊	
21A	花田 一志	市ヶ谷	中調隊	
21A	浜崎 勝	豊川	富校特科部	
21A	渡部 誠	富士	装備開発実験隊	
21N	城山 宏	退職		
21N	福岡 誠	檜町	海幕防衛部運用課	
21N	村田 隆齊	横須賀	プログラム業務隊	
21N	山口 次郎	横須賀	第1護衛艦群司令部幕僚	
21F	木山 幸保	入間	中警団	
21F	沢 豊彦	浜松	1衛校	
21F	真田 雅章	檜町	空幕運用課	
21F	朱 永武	留学生	シンガポール在住	
21F	杉本 弥行	美保	3輪空隊	
21F	鍋島 和史	退職	堺市八田西町3-90-173	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
21F	沼田 幸男	小松	6空団	
21F	平本 行	根室	1防群104基防隊長	
21F	廣江 勝馬	那覇	83航空隊	
21F	松本 修司	入間	中警団	
22A	大本 建吾	南恵庭	第105施設器材隊	
22A	大財城 昭彦	札幌	北方總監部防衛部	
22A	島松 正一	飯塚	第3高射特科群	
22A	永栄 文春	市ヶ谷	幹部学校	
22A	野口 利保	東千歳	第7師団3部	
22A	原田 有繁	富士	4特群本部	
22A	松本 俊二	札幌	11特連本部	
22A	松村 利宏	檜町	陸幕教育部教育課	
22A	吉岡 聖二	檜町	陸幕防衛部研究科	
22N	高塚 裕幸	檜町	海幕防衛部運用課	
22N	塚田 真司	呉	潜水艦「はるしお」副長兼航海長	
22N	中谷 茂	横須賀	掃海艇「つきしま」艇長	
22N	延近 保生	那覇	第5航空群司令部幕僚	
22N	坊垣内 広明	横須賀	潜水艦「おきしお」副長兼航海長	
22F	木戸 文夫	檜町	空幕運用課	
22F	小関 信宏	入間	電子開発実験群	
22F	酒井 伸	新田原	第5空団301飛行隊	
22F	堂込 勝也	小牧	空救団	
22F	永瀧 盛重	檜町	空幕通電課	
22F	野村 勝廣	檜町	空幕監理課	
22F	横手 裕明	府中	支援集団	
23A	奥野 和男	朝霞	輸送学校	
23A	谷崎 敏広	釧路	第27普通科連隊	
23A	広塚 雅史	大久保	第45普通科連隊中隊長	
23A	日高 政弘	檜町	陸幕運用課	
23A	丸山 和宏	東千歳	富校普通科部	
23A	三木 元秀	富士	総合研究開発部	
23A	若杉 治徳	守山	北方防衛部	
23A	若田 清文	目達原	幹部教育部	
23A	浦川 平次	小倉	第40普通科連隊重迫中隊長	
23N	井之久保 雄三	江田島	幹部候補生学校学生隊幹部	
23N	井口 義定	茨城	茨城地連	
23N	数野 謙一	舞鶴	舞鶴補充部	
23N	畑中 孝行	檜町	海幕防衛部防衛課	
23N	山下 啓治	檜町	海幕総務課	
23N	四元 和生	呉	潜水艦「あきしお」副長兼航海長	
23F	池邊 正	檜町	空幕防衛課	
23F	馬谷 誠二	退職	東大阪市日下町3-1-5-319	
23F	川添 一正	退職	鹿児島市山田町2440-92	
23F	シンナロン	留学生	タイ王国在住	
23F	松尾 茂	檜町	空幕技1課	
23F	宮田 義章	百里	7空団	
24A	浅野 博義			
24A	稲葉 貞志	明野	航空学校	
24A	太田 尚志	檜町	陸幕監理部	
24A	大久保 和美	別府	41普連	
24A	金田 辰美	土浦	武器学校	
24A	岸川 慎介	今津	3戦大4中	
24A	高澤 慎司	退職	(株)東京アイシーエス	
24A	常田 義則	退職	小田原市千代475-1	
24A	中村 健蔵	美唄	第126特大	
24A	西津 護	名寄	3普連中隊長	
24A	淵 康隆	檜町	陸幕調達部	
24A	堀之内 誠	東立川	101測量大隊	
24A	山田 雅巳	竹松	7高群327高中	
24A	山川 純次	市ヶ谷	幹部学校学生(TAC)	
24N	小川 勝志	呉	潜水艦「ゆうしお」副長兼航海長	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
24N	佐伯 泰啓	檜町	海幕防衛部装備体系課	
24N	中村 早速	呉	補給艦「さがみ」運用長	
24N	長谷川 隆	退職		
24N	松田 俊宏			
24N	山本 浩	退職	北九州市小倉南区湯川3-8-6	
24F	佐藤 秀幸	檜町	空幕防衛課	
24F	清水 尚志	入間	3補	
24F	出口 潔	檜町	空幕会計課	
24F	中館 利光	檜町	空幕通信課	
24F	藤城 希恭	松島	第4航空団	
24F	山田 真一	檜町	空幕運用課	
25A	石川 哲也	札幌	北方總監部防衛部	
25A	大内 元	一一不明一一		
25A	岡元 正一	富士	富士学校特科部	
25A	小野寺 靖	八戸	第38普通第2中隊	
25A	小菅 康雄	土浦	武器学校	
25A	佐伯 義次	防大	第33中隊指導官	
25A	重石 喜幸	市ヶ谷	幹部教育部	
25A	田草 茂人	山口	17普通1中	
25A	若本 順二	日本原	第13特科連隊	
25N	内山 哲也	市ヶ谷	幹部学校付CS学生	
25N	籠谷 貴年	横須賀	横監人事部	
25N	河村 正雄	檜町	業務隊付幹部学校CS学生	
25N	杉原 耕二	江田島	第1術科学校CS専攻科学生	
25N	高島 修	厚木	第51航空隊	
25F	安芸 一	檜町	空幕人数部教育課	
25F	尾崎 信朗	防大	第43中隊指導官	
25F	坂本 卓己	奈良	幹部候補生学校教育部	
25F	藤吉 恵一	市ヶ谷	幹部学校付CS学生	
26A	石川 毅浩	市ヶ谷校舎	第32普通	2科長
26A	内海 浩	立川	立川業務隊付(NBC出向)	
26A	小野 長門	巨摩	技術第一研究所	鈴木大
26A	及川 幸夫	富士	装備開発実験隊	2連隊2中隊
26A	金子 寿弥	土浦	武器学校教育部	
26A	坂野 佳彦	市ヶ谷	#38CGS	
26A	谷 俊彦	市ヶ谷	#38CGS	
26A	滝沢 由則	退職	札幌市中央区南12西16 滝沢由子方	
26A	友部 隆	市ヶ谷	東部方面隊調査部	
26A	中村 明広	退職	北九州市小倉北区中井3-4-17	
26A	河原 敏和	習志野	1空挺普群	
26A	松田 正行	市ヶ谷	#38CGS	
26A	山下 清隆	旭川	第2高射特科大隊中隊長	
26A	吉田 英紀	勝田CGS	施設学校	
26A	吉田 吉宏	千僧	第3施設大隊中隊長	
26A	市山 暁	極楽	第3陸曹教育隊(上曹本部)	
26N	市坪 秀明	太湊	護衛艦「ゆうべつ」砲雷長兼副長	ミカド艦(号艦)
26N	上野 真一郎	横須賀	練習艦隊司令部幕僚	
26N	佐藤 寿紀	檜町	防衛庁長官官房広報課	一付隊専攻科
26N	杉山 義和	横須賀	「せとゆき」航海長(玩子)	
26N	道満 誠一	檜町	業務隊付筑波大修士(国際政治)	
26N	平野 勝	神戸	阪神基地隊付SF司令部運用	
26N	水野 伸彦	下総	第3術科学校教官	
26N	相楽 達也	下総	第205教育航空隊	
26F	池島 暢也	檜町	空幕整備課	
26F	壽木 優輔	退職	横浜市金沢区町屋町1-5-3	
26F	福島 睦	防大	第31中隊指導官	
26F	星川 敦	市ヶ谷	補給本部	
26F	米子 誠二	檜町	調達実施本部	
27A	大石 隆一	久留米	第4特科連隊第1大隊第1中隊	
27A	大場 基美雄	留萌	第26普通科連隊第2中隊	
27A	緒方 禎浩	退職		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
27A	大居 一之	仙台	東北方武305	
27A	川村 治彦	退職	千葉県船橋市習志野1-3-25緑ハイツ2号	
27A	行幸 正	下志津	高教隊高大4中	
27A	角南 良児	滝ヶ原	普通科教導連隊	
27A	長合 友造	三宿	技研(4研)	
27A	津田 浩司	富士	F5特科部教育課SSM班	
27A	濱田 秀	板妻	34普通科連隊運幹	
27A	馬場 政和	退職		
27A	舞原 博己	小平	調査学校	
27A	山之上 哲郎	えびの	第24普通科連隊重迫中隊	
27A	米山 多佳志	檜町	中央資料隊5科	
27N	小川 昌宏	大湊	護衛艦「いしかり」機関長	
27N	五領 隆男	呉	潜水艦「やえしお」船務長	
27N	交口 俊介	舞鶴	護衛艦「きくづき」船務長	
27N	中里 巧			
27N	益田 徹也	厚木	厚木プログラム業務隊分遣隊	
27N	山田 洋士	厚木	第7航空隊	
27F	足立 謹聡	秋田	航空救難団	
27F	兼吉 修	新田原	飛教隊教導隊	
27F	甲斐 新太	小牧	1輸空隊整補群	
27F	蔵田 衛人	退職	東京都足立区4-3-15千寿コーポ205号	
27F	沢村 徹	退職	町田市忠住3-14-3セジュール天野II-201	
27F	商野 宗治	千歳	特輸航空隊	
27F	西山 利昭	退職	立川市高松町2-25-28	
27F	堀田 隆治	岐阜	第2補給処	
27F	元木 啓嗣	三沢	空自警戒航空隊整備群本部	
28A	畦地 勇	退職	東京都小平市学園西町2-10-17-203	
28A	足立 哲彦	土浦	武器学校研究部	
28A	岡沢 武彦	玖珠	第8戦車大隊第2中隊	
28A	北原 秀章	富士	戦車教導隊	
28A	幸野 秀明	市ヶ谷	幹部学校学生	
28A	古賀 敏明	防大	第431小隊指導教官	
28A	永井 大介	退職	大阪市大正区鶴町2-16-11	
28A	日高 信行	富士	普通科部1戦班	
28A	藤原 修	富士	装備開発実験隊車両科装輪車班	
28A	三好 邦夫	富士	特科部観測班	
28A	矢野 光宏	勝田	施設学校研究部	
28A	湯浅 悟郎	市ヶ谷	幹部学校学生	
28A	越水 達哉	退職	土浦市右羽3035右羽ハイツA-101	
28N	鈴木 巧	退職	栃木県宇都宮市緑4-1550-84	
28N	竹本 直忠	横須賀	護衛艦「むらくも」砲雷長	
28N	西小路 謙	退職		
28N	内田 明	横須賀	横須賀造船所付幹部中級学生	
28N	河津 稔	横須賀	護衛艦「ゆうぎり」補給長	
28N	平島 一	退職	世田谷区多摩川2-14-13星和荘103	
28N	鶴見 耕市	退職	横浜市戸塚区品濃町553-1 J-1405	
28F	今井 邦夫	千歳	特輸航空隊	
28F	神山 隆裕	退職		
28F	白水 勝己	三里	北警団司令部	
28F	中川 勝也	退職	偵察航空隊	
28F	山田 頭嗣	秋田	愛知県豊田市トヨタ町10東アパート715	
28F	吉田 正己	退職	航空救難団	
28F	米田 健二	退職		
29A	浅川 玉樹	退職	文京区本駒込2-12-6駒込2丁目団地4435	
29A	青柳 光	退職	品川区豊町1-22-1今井荘	
29A	蝦原 良雄	退職	横浜市緑区市ヶ尾町1063-10	
29A	大川 浩史	八戸	第9後方支援連隊武器隊	
29A	小屋敷 秀彦	前川原	幹部候補生学校第2候補生隊	
29A	駒井 紀美彦	退職		
29A	佐竹 右総	大宮	化学学校教育部	
29A		退職		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
29A	坂井辰也	久里浜	通信学校第1教育部	
29A	新保博徳	吉井	武器補給処吉井弾薬支処	
29A	託摩安広			
29A	立林剛	市ヶ谷	CGS	
29A	津田芳明	札幌	北部方面総監部防衛部防衛課	
29A	中村浩	下志津	高射学校	
29A	古田清悟	市ヶ谷	CGS	
29A	古川靖人	福岡	第4後方支援連隊武器隊	
29A	谷拓弥	美保	調査部別室	
29A	甲斐正人	名寄	4高群	
29A	水上義仁	市ヶ谷	調査部別室	
29N	柏木均	横須賀	潜水艦「おきしお」	
29N	川上和美	退職		
29N	山崎浩一	江田島	第1術科学校付幹部中級課程学生	
29F	熊田原修	千歳	第2航空団整備群本部	
29F	高松実	千歳	航空救難団整備群	
29F	西村政恭	春日	第2高群	
30A	池永博和	相模原	東方通信群101基地通信隊	
30A	岩熊真司	大宮	武器補給処大宮支処技術課	
30A	岩魚治晴	退職	東京都板橋区高島平2-33-7-818	
30A	魚住晴康	立川	東方航空隊第1飛行隊	
30A	龜山淳	守山	35普連	
30A	笠島広文	退職	鯖江市水落町1丁目4-23	
30A	菅野俊夫	檜町	檜町業務隊付 東京工業大学	
30A	土屋甲吉	函館	第311施設中隊	
30A	中井馨	退職	甲賀郡石部町金ヶ町865	
30A	中村助	姫路	第3特科連隊第4大隊本管中隊	
30A	中川洋行	帯広	第1対戦ヘリ隊	
30A	中森雅美	北宇都宮	東方航空隊第12飛行隊	
30A	西良典	帯広	第4普通科連隊	
30A	林宏幸	川内	第8施設大隊	
30A	福田伊丹	伊丹	伊丹業務隊付 神戸大学	
30A	船津達男	退職		
30A	宮本善弘	高遊原	西部方面隊第8飛行隊	
30A	矢納祐二	福岡	第366会計隊	
30A	山口芳正	遠軽	第25普通科連隊第1中隊	
30N	鈴木達雄	退職	西春日井郡豊川町大字豊場字流川147	
30N	時久達寛	下総	下総航空工作所	
30N	百崎邦彦	大村	123航空隊	
30N	湯浅秀樹	船越	プログラム業務隊付	
30F	栗田尚幸	殉職		
30F	黒田健一	退職		
30F	後藤豊	退職	大阪市生野勝山南1-21-19	
30F	高橋親敏	府中	支援団司令部装備部	
30F	西本彰雄	笠取山	第1警戒群運用班長	
30F	橋爪猛	那覇	83空隊整備群	
30F	本田猛	退職		
30F	吉田憲司	浜松	第2術科学校第1教育部第4科	
31A	石丸威司	帯広	第5施設大隊本部	
31A	池ノ本八郎	富士	装備開発実験隊車両様装輪班	
31A	大島龍一郎	退職	堺市上野芝町8-1-4	
31A	龜山慎二	富士	戦車教導隊	
31A	久保敏治	北恵庭	第1戦車群第304戦車中隊	
31A	佐野光	霞目	東北方ヘリ隊	
31A	権野健治	八尾	中方ヘリ隊	
31A	田口直志	上富良野	第305武器直接支援隊長	
31A	辰巳竜悟	富士	装備開発実験隊電子機器科通信機器班	
31A	辻幸	真駒内	第11高射特科大隊	
31A	中川博英	北熊本	第8後方支援連隊補給隊	
31A	橋本哲彰	丘珠	北方航空隊第11飛行隊	
31A	久富博幸	退職		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
31A	藤岡 登志樹	滝ヶ原	普通科教育連隊	
31A	松井 健一	防大	防大研究科	
31A	吉武 辰明	千僧	第3輸送隊後方支援連隊輸送隊	
31A	蝦名 伸治	舞鶴	護衛艦「ながつき」航海長	
31A	岡田 岳司	呉	第44護衛隊隊付	
31N	大井 一史	館山	21空群124航空隊	
31N	甲斐 義博	佐世保	第33護衛隊隊付	
31N	久保田 修一	佐世保	護衛艦「こんごう」	
31N	迫田 浩文	防大	防大研究科	
31F	阿部 博文	防大	防大研究科	
31F	北村 克晶	那覇	那覇ヘリコプター空輸隊	
31F	小南 良人	殉職		
31F	近藤 良彦	三沢	飛行群	
31F	渋沢 寛	防府北	航学群	
31F	野沢 隆一	千歳	第2航空団第203飛行隊	
32A	市来 道啓	板妻	第34普通科連隊	
32A	大塚 裕治	檜町	中央会計契約科第2契約班	
32A	大塚 和也	旭川	第2高射特科連隊第1中隊	
32A	小原 真二	退職	航空大学校 宮崎市赤江字飛江田学生寮	
32A	小田 益男	防大	防大研究科	
32A	上山 聡	海田市	第46普通科連隊迫中隊	
32A	川崎 誠二	八尾	中方ヘリ隊	
32A	境 孝明	山口	第17普通科連隊本管中隊	
32A	更工 雅彦	退職	奈良県橿原市和田町32-4	
32A	神保 俊昭	退職	和歌山県東牟婁郡古座町中湊531	
32A	田口 芳郎	退職	世田谷区松原3-23-1074-117101	
32A	竹内 利治	八尾	中部方面航空隊	
32A	中村 裕亮	滝ヶ原	普通科教育連隊第5中隊	
32A	平田 雄嗣	えびの	第24普通科連隊本管中隊	
32A	福元 昌二	久留米	第4特科連隊第5大隊	
32A	福重 毅尚	相馬原	第12戦車連隊第1中隊	
32A	山地 伸一	高知	第2混成団施設隊	
32N	河上 康博	大湊	大湊地方総監部副官	
32N	後藤 幸英	退職	調布市若葉町3-9-3YHP 価台寮	
32N	森本 武朝			
32N	松尾 研志			
32F	植村 茂己	市ヶ谷	補給本部	
32F	鈴木 憲	浜松	第2術科学校第1科	
32F	高橋 秀雄	防大	研究課	
32F	山口 直人	松島	航空救難団	
32F	渡部 誠	美保	第3輸送航空隊	
33A	池田 誠喜	練馬	第1後方支援連隊武器隊	
33A	大津 勝利	檜町	中央資料隊	
33A	柿野 志嗣	防大	防大研究科	
33A	川崎 英幸	退職	東京都保谷市ひばりヶ丘3-4-3T&Kビル7F	
33A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊	
33A	郡山 直樹	湯布院	第3特科群	
33A	椎葉 博正	退職	練馬区高野台5-1-12FGL石神井寮216号	
33A	谷口 喜一郎	留萌	第26普通科連隊	
33A	富樫 勇一	防大	第221小隊指導教官	
33A	大塚 修一	東千歳	第11普通科連隊	
33A	半澤 新吾	退職	岐阜市加納南陽町3-12	
33A	久永 智	退職	岡山県倉敷市大内1073	
33A	細野 容司	遠軽	第25普通科連隊	
33A	山本 真也	大津	第109教育大隊第316共通教育中隊	
33N	鷗翠 直樹	不明		
33N	関口 雄輝	檜町	東京業務隊付サイマルアカデミー研修	
33N	高橋 真一			
33N	西窪 純	不明		
33N	町島 敏幸	那覇	第5航空隊	
33N	山本 裕一	不明		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
33N	渡辺 浩	舞鶴	護衛艦「きくづき」	
33F	新崎 秀樹	不明		
33F	岡本 秀文	檜町	中央業務隊付	
33F	田中 勝也	退職		
33F	荒木 俊一	那覇	南西防空管制群南西航空警戒管制隊	
33F	高草 大		兵庫県西宮市田近野町5-4	
33F	増田 友晴	築城	8空団飛行群	
33F	御廚 広之	浜松	教導高射隊第2教導隊	
34A	石黒 太美英	神町	第6飛行隊	
34A	篠原 康一	福岡	第6後方支援連隊	
34A	田中 一要	防大	防大研究科	
34A	田丸 正勝	信太山	第37普通科連隊	
34A	筒井 鋭達	郡城	第43普通科連隊	
34A	能井 智治	退職	津山市勝田町19	
34A	松永 康則	新築田	第30普通科連隊	
34A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊	
34A	永室 正一郎	退職	福岡市城南区田島4-24-32	
34N	富山 修	横須賀	護衛艦「しらね」	
34N	丹羽 満良	岩国	第31支援整備隊	
34F	羽田 充伸	木更津	第1補給処	
34F	小笠原 卓人	習志野	第1高射群	
34F	河田 成治	新潟	航空救難団	
34F	田代 秀也	那覇	南西航空混成団南西航空警戒管制隊	
35A	安藤 和幸	霞目	東北方面航空隊	
35A	戒田 重雄	習志野	第1空挺団	
35A	川嶋 和之	北宇都宮	第12飛行隊	
35A	木場 元大	信太山	第37普通科連隊	
35A	坂本 雄一	旭川	第9普通科連隊	
35A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群	
35A	中村 健太郎	高田	第2普通科連隊	
35A	中本 尚明	市ヶ谷	第32普通科連隊	
35A	福本 博氏	山口	第17普通科連隊第1中隊	
35A	馬淵 貴史	福島	第11施設群329施設中	
35A	袖之原 公郎	目達原	第4飛行隊	
35N	加藤 寛和			
35N	中原 俊行	呉	護衛艦「なつぐも」	
35N	三浦 則文	呉	護衛艦「みねぐも」	
35N	森泉 周	下総	教育航空集団司令部付	
35F	中礪 武志	浜松	1空団	
35F	堀 修二郎	浜松	航空教育集団司令部付	
36A	井上 勝	久里浜	中央野外通信群	
36A	岩村 伝法	退職		
36A	榎窪 正和	青野原	第8高射特科群	
36A	大北 知史	駒門	第1戦車大隊	
36A	倉田 一	勝田	施設教導隊	
36A	中村 英昭	遠軽	第3普通科連隊	
36A	日高 邦登	北熊本	第8特科連隊	
36A	福島 浩二	美幌	第1特科群	
36A	藤岡 史生	真駒内	第18普通科連隊	
36A	前田 尚男	久留米	第4特科連隊	
36A	村上 至	真駒内	北部方面輸送隊	
36N	鳥越 要			
36F	綿森 昭示	饗庭野	第4高射群	
37A	大山 剛	駒門	第1高射特科大隊	
37A	河合 寿士	目達原	西部方面武器隊	
37A	児玉 洋	伊丹	第36普通科連隊	
37A	富原 大治	日本原	第13戦車大隊	
37A	平瀬 慎	古河	第1施設大隊	
37A	古田 和之	旭川	第2後方支援連隊	
37A	森安 宏徳	松本	第13普通科連隊	
37A	山下 豊	滝川	第10普通科連隊	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
37A	吉田 文二	北庭	第72戦車連隊	
37N	石原 寿英	江田島	海幹校	
〃	岩本 正行	江田島	海幹校	
〃	木下 治信	江田島	海幹校	
〃	鈴木 隆弘	江田島	海幹校	
〃	高取 哲郎	江田島	海幹校	
37F	高久重路	防府	教集団付	
〃	塚原 敏夫	知念	5高群	
〃	中居 景良	防府	教集団付	
〃	矢坂 勝良	防府	教集団付	

編 集 後 記

合 掌

新春の候、OBの皆様におかれましては増々御健勝のこととお慶び申し上げます。また、日頃から貴重な時間を割いての御協力、御支援並びに御指導を承り誠に有難うございます。

さて、防衛大学校少林寺拳法部部誌も第20号の発刊を迎え、平成5年度の輝かしい成果を御報告することができ、大きな慶びとするところであります。これも諸先輩方の御協力及び38期主将以下の指導の賜物と感謝しております。

我が部も来年度、創部30周年の大きな節目をむかえるわけですが、その重要な時期に在職できることを誇りに思いますとともに、諸先輩方の築き上げられてきた伝統を受け継ぐと言う重責を自覚し、日々活動していきたいと思います。

今後とも現状に甘んじることなく、防衛大学校少林寺拳法部の名をより知らしめるべく、たゆまぬ努力を続けていきますので、OB各位におかれましては、何かと御多忙中とは存じますが、変わらぬ御指導、御鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

最後に、本部誌発行にあたり、御指導下さった部長、監督、顧問の方々はじめ、投稿してくれた各学生に感謝して、編集後記と致します。

結 手

平成5年度 OB係 朽木学生

